



## 曲がり角だらけ

宮城県在住

林 周二

(昭和41年農学科卒)

私が山大を卒業してから48年がたった。卒論のテーマは「醤油酵母の耐塩性促進因子について」である。農芸化学科がスタートしたのは私の卒業後である。

私は在学中に卒業後の進路を決めていなかった。研究室の同期生は6人だった。そのほとんどが民間企業に就職しようだ。私は、何とはなしに大学院進学を考えていたが、それらしい勉強はしていなかった。卒論研究(実験)こそ大学院進学のための最強の準備だと固く信じていたのでもない。その時々ベストを尽くしていればなんとかなるとでも考えていたのか、今思い返してみると何を考えていたのか自分でもわからない。

微生物に興味を持った直接的なきっかけもはっきりしていない。あえて挙げるならば戦後間もなく私の母が肺炎に罹りその治療にペニシリンを使ったことと

関係しているように思われる。ペニシリンなど初期の抗生物質の発見経緯を知ったことから微生物への興味を持つようになったと思う。

山大農学部に入るまで2年を費やし、卒業して岩大大学院に入るのにまた2年を費やした。大学院修士課程を出るにあたって農業製造メーカーの採用試験を受けたが、「修士課程では中途半端だ」と言われ、民間企業をあきらめて食いぶちを賄うためになんとかしなければならぬと思っていたところに教員の口がかり採用試験と面接を受けた。面接をした校長は、70年代の校長室に金泥で書いた額縁入りの教育勅語を掲げる人物で教職員組合をよく思わない人物だった。その面接で聞かれたことは「教職員のストライキをどう思うか」ということであつた。「教職員にもいろいろな人がいるので」律には言えません。」とあいまいな答えをして切り抜けたことを覚えている。就職にあつた32年間に最初に赴任した農業高校と、もう一校も農業高校だけ勤務した。私には、親しい同僚が農業教育が大事だといひながら理科教員の免許を持っていることを理由に農業教育の現場を離れていくのに抵抗する気持ちがあつた。最近では、農業の免許を持たない理科教員に農業を指導させている農業関連学科も少な

くないと聞く。縁あつて有機農産物の認定を行っている NPO に10年ほど勤務した。現在もその認定機関で、判定業務に携わっている。

自分の過去を振り返るのは、履歴書を書くときぐらいだろう。自分の学生時代以降を振り返る機会を与えてくれた佐藤農一会長に感謝して筆を置く。

## 被災地で同期会

宮城県在住

白鳥 峻

(昭和41年農学科卒)

昭和41年農学科卒業の同期会は10年ほど前から山形県内在住の有志により、毎年山形県内で行われてきましたが、昨年の米沢市での開催時に、次回は宮城での開催を希望する声があり、私が幹事を担うことになりました。

実施会場の選定にあたり、一般的には秋保温泉とか松島とかが妥当なところですが、宮城県北東部の女川町にしました。

あえて東日本大震災の被災地を選んだのは、被災地を観ることで震災の記憶の風化を防ぐとともに、大げさかもしれないが多少なりとも消費する事で地域復興の支援に貢献できたら



前列左から藤田、菊池、平賀、上林、横川、後列左から林、清野、佐藤、浅野、高橋、宇都、伊藤の各氏  
中列中腰でいるのが筆者。

との思いもありました。開催日時は平成26年3月10日から11日の二泊三日の日程。何より遠方であり、かつ交通の

便もあまり良くない所なので、果たして参加者がどれだけ見込めるか不安でしたが、佐藤会長はじめ山形、秋田、宮城から13名

の申し込みを得ました。

女川町は比較的小さな町ですが、日本有数の漁港のある町です。また俳優の中村雅俊さんの出身地でもあり原発のある町としても知られています。

会場となったホテル華夕美は、震災時一階床下まで浸水したとのことでしたが避難所となり1ヶ月後から営業を再開したそうです。

当日は全員遅れもなく集合、6時より開始。はじめに震災犠牲者への黙祷を捧げ、鎮魂と復興を祈り静かにスタート。

乾杯やがて喉もうるおうと歓談もにぎやかに。特に卒業以来48年ぶりに初参加の顔もあり、あの頃の頃の話続出、場は大いに盛り上がりました。

宴もたけなわになると、Y君のギター伴奏指揮のもと「逍遙歌」を全員で斉唱。いっとき鶴岡時代に浸りました。ついでに、数年前まで行われていた日本寮歌祭ではすっかりお馴染みになった旧制山形高校の代表的寮歌「嗚呼乾坤(ああけんこん)を楽譜でレッスンし熱唱。この歌は私も山形小白川の学寮に居た頃時々耳にしたことがあります。最後に次回開催地を秋田県に決定しめでたく閉会。

さて二日目は、震災発生から三周年の日にあたります。私たち一行は、朝食後ホテルのバスで、壊された町の姿を視ながら、かま

ぼ工場やお魚市場を巡り地場産品を買い求め、ホテルにて解散、帰途につきました。

3年前の3月11日(金)午後2時46分マグニチュード9.0、県内の最高震度は震度7を記録した東日本大震災。地震後の津波により壊滅的な被害を受けた女川町。最大津波高14.8メートル津波最大遡上高34.7メートル。震災前人口10,014人、死者566人、死亡認定者255人、行方不明者6人。平成26年7月末人口7,257人となっています。現在官民あげての震災復興事業が進められています。進捗状況は遅れているようです。

2015年度末まで完了を目標としていた災害公営(復興)住宅も2017年度にずれ込むことがわかりました。

一日も早い復興を祈ります。尚、つい先日の某新聞の報道によれば「今年1月時点で総務省がまとめた調査によると、女川町の人口減少率は2年続けて全国各市町村で最も大きかった」との事です。



人生山あり、谷あり、  
みんなでスキヤキを  
食べよう

家畜改良事業団  
家畜改良アドバイザー

寺島 豊明

(昭和44年農芸化学科卒)

山形大学農学部を昭和44年に卒業してから、45年も経った。山形大学を卒業して、全購連という組織に入った。やがて全農という組織になった。飼料関係の技術に携わった。畜産が伸びて、農協組織だったので、いろんなことを経験させてもらった。38年間も在籍したが、最後は、牛の農場巡りばかりで、定年退職を迎えた。「大器晩成と言われつつ、定年退職の朝を迎える」という心境だった。

ラッキーなことに、退職時に、全農ミートフーズ(株)から、「枝肉共励会担当と肉牛の生産指導をして欲しい」と要請され、楽しく仕事をすることができた。

しかし、東日本大震災が発生した。私自身は日頃の不振生と

## 明治創業 百余年 鶴岡の老舗 肉の長南

### ● 株式会社 長南牛肉店

〈鶴岡店〉山形県鶴岡市日吉町9-27

TEL 0235-22-0143 FAX 0235-23-2424

### ● 株式会社 長南

〈大山店〉山形県鶴岡市大山2-23-33

TEL 0235-33-2941 FAX 0235-33-2940

#### 【主な取扱い商品】

- ・山形牛・米沢牛・国産牛・輸入牛・庄内豚(桜美豚)・輸入ポーク・国産鶏
- ・銘柄鶏・輸入鶏・ラム類等・自社ハム類・メーカーハム類・贈答用みそ漬
- ・粕漬・オードブル・折詰・弁当・イベント・催事用機器食材

長南 雄太(6代目) 現在、山形大学 農学部 畜産学研究室3年生でお世話になっております。

大酒飲みがたり、大病を患ってしまった。アキレス腱切断からきた第三腰椎圧迫骨折、右頸動脈狭窄症の大手術、何度かの小腸ポリプ手術、糖尿病、高血圧と老人病のデパートになってしまった。「寺さんは、もうダメらしい」という噂が飛び交ったが、あきらめなかった。病気の方は、思い切り仕事を休んだせいではないかと落ち着いた。さらに、それまでに何回か連載した雑誌「養牛の友」の原稿をまとめ、「俵牛づくりに挑戦しよう」という単行本を出版することできた。出版社は印税の関係か、売れ行きは今一だという。今年の4月から「家畜改良事業団」で働いている。仕事は、肉牛の情報収集と農場の技術指導である。さらに、良い種雄牛づくりが加わった。

肉牛に関係した仕事なので、講演の仕事が多い。その中で、必ず、2つのことを訴えている。一つは、①「90歳まで牛を飼おう。」若い人ばかりが、後継者ではない。今60歳の人があと30年、70歳の人があと20年牛飼いを続けてくれれば後継者一人増やしたのと同じだ。仕事を続けるためには、何を改善すべきなのかを、JA内の、牛部会でみんなで検討して欲しい。一番の重労働は、毎日の飼料給与とボロ出した。この重労働から解放されれば90歳まで牛飼いは続けられる。90歳で牛を出荷したら、農林大臣賞で祝いたいというのが今の夢だ。繁殖農家が老齢化で廃業しているため、子牛の頭数が減少し、子牛の値段が異常に上がっている。肉牛業界が危機に遭遇している。二つ目は②「和牛食文化を日本に、世界に広めよう。」具体的には、スキヤキ、しゃぶしゃぶを、一回でも多く食べよう。TPPの悪影響を少しでも和らげるためには、和牛の輸出も結構だが、量が知れている。肝心のスキヤキ、しゃぶしゃぶの牛肉の薄切り文化を日本に定着させ、世界に広めなければ、和牛の消費拡大と将来性はない。日本のご馳走、ハレの日には、スキヤキ、しゃぶしゃぶを食べようという訴えだ。

今から思うと鶴岡時代は、たった2年半であったが、いろんなことを思い出す。学生運動、デモ行進、シブレヒコール、警官の啓明寮侵入事件、道路工事の重労働アルバイト、家庭教師の失敗、寮生活、酒盗会(同好会)、雪の中を自転車での新聞配達、留年の恐怖、卒論の不安、林部先生等々が懐かしく頭の中を駆け巡る。山形大学農学部を卒業して本当に良かったと思っている。感謝している。なぜなら、68歳の今、楽しくなつかしい思い出を沢山持つことができ仕事と家族に恵まれ、下手なテニスとゴルフついでにカラオケ付きの大酒飲みを、週末に楽しむことができるのだから。

(平成26年8月)

## 夕日を眺めながらの同期会

山形市在住 栗野 省三

(昭和44年農芸化学科卒)

昭和44年農芸化学科卒業生の同期会を、8月30日に鶴岡市湯野浜温泉うしお荘で開催致しました。参加者は13名と少なかったが、初めての参加者もあり、大変盛り上がりました。

特に、宴会場では、日本海に沈む美しい夕日を見ながら酒を酌み交わしました。

話題は、鶴岡での学生生活の話題がほとんどで、約50年前にタイムスリップしたようでした。天神祭、行灯行列、屋代の焼き鳥店、学園祭、寮生活等次々と湧き出る思いで話に花が咲き、夜の更けるのを忘れたようでした。翌日は自由解散となりましたが、クラゲで話題の加茂水族館に多数の方が行かれたようです。

なお、次回の同期会の開催は、まだ足腰の丈夫な2〜3年後との話になりました。



# 中高年登山

宮城大学食産業学部

富樫 千之(旧姓鈴木)

(昭和51年農業工学科卒)

テレビで天気予報を見ていると、つい週末の天気の晴れている地域が気になる。特に、私が住んでいる仙台の近場としての東北である。学生時代に「自然に親しむ会」で体験した登山は趣味の一つであり、特にここ数年週末登山を楽しむためである。

昨年の「海の日」を含む3連休は東北地方ほぼ全域が雨模様、ただ青森北部だけが晴れマークの天気。金曜日の夜に行先は初めてとなる「八甲田大岳」と決め、連休初日の土曜日の朝出発、高速道に乗り、一路酸ヶ湯温泉登山口に直行した。登山口駐車場は晴れ、コースは下毛無岱、上無岱の2つの湿原、水芭蕉、ヨツバシオガマ、チングルマなどのお花畑を通り、大岳避難小屋(1,440m)までの標高差540m、およそ2時間の行程である。小屋にザックを置き、途中残雪にビールを埋め20分で1,584mの大岳山頂に到着する。眺望は抜群で、この日はビール片手に夕日を眺め、避難小屋で1泊した。翌朝、井戸岳、

赤倉岳を經由して元のコースを辿り登山口にたどり着いた。晴天域が南下したので、岩手県の七時雨山登山を経て八幡平・茶臼岳小屋でさらに1泊した。この茶臼岳はアスピーテラインの黒谷地からコースタイム

1時間弱、お気に入りの一つで山頂からは眼下に熊沼などが一望、さらに南方には南部片富士の岩手山が雄姿をみせる。学生とも年数回登る。昨年の夏休みは学生5人とともに2泊3日の燧ヶ岳、会津駒ヶ岳



早池峰山の頂上にて 下段右から二人目が筆者

の登山。今年は朝日連峰を踏破。写真は二昨年の早池峰山の頂上である。

近年、中高年登山が花盛りであるが、特に連休中の事故が絶えない。登山計画を立てると、天候悪化でも計画を中止しないことに最大の原因があるように思える。このため、晴れの山しか登山はしないと決めている。また、登りより下りに危険を感じるようになった。還暦を過ぎ、体力も下降、仕事も少しずつ減らし、人生の下山を考えている。

話は変わりますが、今年の鶴窓会宮城県支部総会で6年間支部長を務めて頂いた富樫二郎先生に替わって支部長に選任されました。支部会は総会、講演会、懇親会のプログラムで毎年約50名が参加、講演会は同窓の活躍等に直接触れ、懇親会は近況報告に花を咲かすいい機会になります。宮城県に在住する同窓生の皆さん、支部会は6月第二日曜日に固定しておりますので、是非参加をお願い致します。



「庄内鶴岡をいつまでも盛り上げてください。」

鶴岡市在住 鏡 信男

(昭和53年農業工学科卒)

実りの秋、庄内平野では今年も稲の刈取り作業の真っ只中です。外に出ると流れる空気もかすかに稲わらの香ばしいかおりが漂い、四季折々「庄内の秋！」を実感できる季節となっております。

さて、農学部卒業以来、鶴岡に住み続け40年近く、農学部キャンパスも建物や玄関が様変わりし、町の雰囲気も変わってきています。にぎやかだった鶴岡銀座、昭和通りも通る人もめっきり少なくなり、学生だった頃の昔の面影をたどる度二抹の寂しさがこみ上げてきます。

庄内地域も人口は減り続け、全国的な流れ同様に、大きく減ってきています。最近まで問題視されていた「少子高齢化」はそれ以上の「人口減少、市町村消

減」等へと厳しい現実がクローズアップされています。

そんな中、山形大学農学部若手学生さん達が直接地域の集落に入り込み、地域農業や集落の現状について意見交換しながら、いろんなことを感じ、集落機能の維持、継続策や活性化に向けた提案等、いろんな場面で活動されています。

自分達の学生時代は、5学科（農学科、林学科、農業工学科、農芸化学科、園芸学科）による専門知識を追求していた学部構成でありましたが、時代の要請から平成に入って二度の改組が行われ、現在は「現在から未来への諸課題に対応、解決しうる若い力を養成」していく総合的な学習を基本とした、「二学科制（食料生命環境学科）に換わっている」とのことです。

昔の時代を回想する昭和の卒業生である自分達にとっては、5



学科時代が長かったことから、学科ごとの同窓会活動も活発で、それらへの想いも大きいものがあります。しかしながら、現在は学部改組に伴い卒業生の確保、繋ぎが難しい状況となっております。後にはより「鶴窓会」の存在、運営が重要になっているのではないかと感じているところです。

さて、話は変わりますが、現在庄内地域では、  
○庄内の豊かな「食」と「食文化」を守り、発展させるとともに、それを育んだ庄内の風土、環境を保全し、次世代に引き継いでいくこと。

○庄内は、古より多種、多様な食材、食文化が集まる食の「都」であり、「食」とそれを生み出した魅力ある自然、文化、人を活かし、交流を活性化すること。

○多種多様な誇れる食を活かし、「ふるさと庄内」の産業、地域を活性化し、地域全体を元気にしていくこと。

を基本理念として『食の都庄内』づくりを地域一体となって取り組んでおります。

当然、山形大学農学部の各先生方、学生さんとも先頭に立ち、地域の皆さんとともに各分野で活動、活躍されております。

庄内地域は、将来にわたって『日本の食糧基地』であり、それに成りうる基盤が備わっています。そういった中で、山形大学農学部が地域を支えている存在は、

これまでもそうですが、今後とも変わらない不可欠なものと確信しています。

会員の皆様におかれましては、是非一度パソコンで『食の都庄内』を検索していただき、それぞれ学生時代を過ごした頃に想いを馳せ、いつまでも鶴岡、庄内、そして山形大学農学部が未来に向かって輝いていけるよう、いろんな場面での応援、支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



## 耳順を迎える 歳になり

宮城県古川農業試験場長

中井 誠一

(昭和53年農芸化学科卒)

不惑や知命の時をとづくに過ぎ、まもなく耳順の歳を迎えようとしている。しかし、いまだ惑い、天命を知らず、ましてや人の

## 総 合 建 設 業

# 笹谷建設株式会社

代表取締役会長 佐々木 正光 (昭和31年 林学科卒)

〒080-0018 北海道帯広市西8条南17丁目1番地

TEL 0155-27-1116 FAX 0155-27-1117